



久 留 米 大 学

御 井 図 書 館 ニュース

No.110 2022 年 9 月 1 日 発行

100 人が読めば、百の物語

人間健康学部長 吉田 典子

物心がついたころから、「絵本」を読んでもらった記憶はあまりありません。でも、気がついたら私の周りには沢山の「本」があり、暇さえあれば本を読んでいた。小学生のころ、お小遣いのほとんどは本に使ってしまっていたように思います。そのころの1番のお気に入り、佐藤悟の「誰も知らない小さな国」でした。「こぼしさま」が住んでいるという「ぼく」だけが知っている秘密の小山・・・子供にとってこれ以上ない魅力的な世界が広がっていました。何度も読み返し、ボロボロになった本は今も私の本棚にあります。初期版の挿絵は若菜珪のもので、今は絶版になっているようです。素朴なコロボックルの挿絵は今見ても子供の頃の気持ちが蘇り、自然に心がほだけていくようです。この頃、少々現実から離れたところにあるファンタジー小説が好きになったのかもしれません。

児童文学全集や偉人伝は小学校の図書館で読み尽くしました。図書館に興味のある本がなくなると、実家から徒歩3分のところにあった小さな本屋に行くようになりました。当時は図書館にはあまりなかった推理小説、いわゆるミステリー小説が大好きになりました。コナン・ドイルのシャーロック・ホームズに始まり、モーリス・ルブランのアルセーヌ・ルパンは子供向けの全集で読みました。少し高学年になり、エラリー・クイーンの大トリ・レーン、アガサ・クリスティのミス・マーブルやポワロシリーズ、「そして誰もいなくなった」はあまりにも有名です。なぜかミステリーは海外の翻訳本から読み始めて、日本のミステリー小説を手にとったのは高校生になってからでした。試験勉強の合間に、今日は読書の日と決めて、探偵たちの謎解きのロジックにワクワクして時間を忘れてページをめくるのは至福の時でした。

私にとって本を読む、活字を読むことがいかに大切かを実感したのは、30歳台半ばのスウェーデン留学中でした。留学先はエーテボリという比較的大きな都市でしたが、日本語の本や雑誌を販売している書店は1件もなく、日本語が読めるのは市立図書館の1週間遅れの新聞コーナーだけでした。当時は、まだインターネットやネット販売もありません。知人が毎月送ってくれていた「文芸春秋」を心待ちにして、広告の一言一句までを舐めるように読み、本当に有り難かったことを覚えています。

ドキュメンタリーや実践本は、ほとんど手にしたことはありません。職業柄、医学書は超現実・即物的なので、仕事以外で読む本は「小説」ばかりです。日本人の作家では、文章が簡潔で美しく分かりやすいものが好みます。どんな作家が好きですか？と尋ねられたら、古典は夏目漱石、現代では村上春樹と答えることにしています。村上春樹は、1979年デビュー作の「風の歌を聴け」を学生時代に読んで以来、長編から短編、随筆まで、新作の発売を心待ちにして読むことができました。私自身の青春時代から現在まで年を重ねるなかで、物語の主人公たちも、様子を変えて登場しては成長して、常に寄り添って一緒に歩いてくれているように感じます。最近、ラジオ番組で、「村上春樹を読む」という特集が放送されていて、面白く聞いています。しかしながら、同じ物語でも音声で聴くのは、本で読むのとは全く異なる経験です。活字の描写には余分な画像や音色はありません。

文章からその物語の世界を自由に想像することができる点が、読書の魅力ではないかと思っています。「100 人が読めば、百の物語になる」のでしょう。

子供の頃からの本と私の関係を徒然に書いてきました。私にとって、本を読むのは、ごはんを食べるのと同じくらい大切に、私自身の気持ちの栄養になっているのだろうと感じています。本の中に、ときどき声に出して読みたくなる文章が出てきます。それは、符に落ちて共感できる、美しい文章で、私をとてとても幸せにしてくれます。活字離れと言われて久しい時代ですが、皆さんに、そんな本に、文章に出会っていただきたいと願っています。

変化した図書館の在り方

経済学部経済学科 3 年 宮木 聖梨華

いま、図書館は本を借りたり読んだりするだけの場所ではなくなってきたのをご存じだろうか。さまざまなネットコンテンツの普及により若者の本離れが進んでいる中、イノベーションという形で図書館の利用促進を試みている図書館が増えている。イノベーションとは「革新」の意味を持ち、新しいものを創造するまたはこれまでのものを変えることで新しい価値を生み出すことである。

このイノベーションを取り入れた図書館に佐賀県の武雄市立図書館がある。この図書館では図書館としての機能だけでなく、書店、カフェ、レンタル DVD 店が併設され、さまざまなワークショップも開催されている。またイノベーションされた図書館は建築物としてのデザイン性も優れており、フォトスポットとして SNS で取り上げられることもあるほどだ。さらに 2017 年に隣接された武雄市こども図書館も話題となった。テーブルやイスは子供サイズに統一され、“遊び”から“学び”というコンセプトのもと子供たちの成長をサポートする楽しい施設となっている。子供のための設備やワークショップを行うことで多くの親子連れが訪れるスポットとなった。このように図書館はイノベーションでくつろぎの空間、おしゃれな空間に生まれ変わり、若者や親子連れの集客に成功している。実際、武雄市立図書館はイノベーション前の 2012 年に 167,218 人であった入館者数が、翌年 2013 年のリニューアル後 923,036 人と激増した。

図書館のイノベーションにより武雄市が文化や教育を重視し改革に挑んでいる姿勢は全国に伝わり、市の知名度上昇にもつながった。日本図書館協会が 2016 年に実施した全国調査では、1049 の自治体のうち、497 の自治体が公立図書館で地域復興や街づくりを目的とした事業を行っていると答えている。私たちの住む地域でも図書館が地域の活性化を担う施設になりうる日が来るかもしれない。

しかし、図書館の本来の目的は人を集めることではない。本と出会う場所であるはずだ。私自身小さなころはあまり本を読むことが無かったが、大学生になってから本を読むことが増えた。本は共感や反感、新しい発見など多くの感情と知識を常に与えてくれる。読書をしていると考え方が変わったり物事を違う視点で見えたり、視野がものすごく広がるのを感じる。自分の知見を広げることができる点は自分自身の成長につながるのではないだろうかと思っている。

図書館の役割は広がり、人々が多様な目的を持ち集まる現代的な施設へと変化しているが、図書館のイノベーションが人々に読書の楽しさを気づかせてくれるきっかけとなってほしいと願っている。

『選書ツアー』を実施しました！

御井図書館では、学部生を対象に選書ツアーを実施しています。1人3万円を上限に、自分が読みたい本・図書館に備え付けて欲しい本を店頭で実際に手に取って選ぶことができます。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となり、今年度は6月18日（土）にジUNK堂書店福岡店にて実施しました。文学部・法学部・経済学部生の計8名が参加し、約130冊の図書を選書していただきました。

1階の選書ツアーコーナーへ排架していますので、どうぞご利用ください。

※参加した学生の感想

過去2回Web選書に参加しましたが、やはり本屋さんに来ると自分の知らなかった本との出会いがあり、Web選書よりも満足感がありました。ただ、選書ツアーは日程が合わず参加できないこともあると思うので、Web選書の意義もあるのかなと思います。

今回初めて参加させていただきましたが、とても濃密な時間だったと思います。普段読みたい本があって図書館で探すか貯金を切り崩して買わなければならないため、日常的に買えないような本を選ぶことが出来て良かったです。

実店舗で実際に見て選ぶということで、Web選書とはまた異なる新たな出会いがありました。今後もこのようなツアーがあれば、是非参加したいと考えています。

普段は3万円分も本を買うことができないので、大人買いをしているようで楽しかった。選書ツアーをきっかけに、自分の読みたい本を自分で選ぶことができたため、これからは大学図書館を積極的に利用していきたいと思った。

寄贈図書（学内関係者）

受入期間：2022 年 4 月 1 日～2022 年 8 月 31 日

寄贈者名	書名	著者名	出版者
江藤 彰彦	西郷隆盛と幕末維新の政局：体調不良問題から見た薩長同盟・征韓論政変（大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書：第 19 冊）	家近良樹著	ミネルヴァ書房
	地域名菓の誕生	橋爪伸子著	思文閣出版
	明治農政と技術革新	勝部眞人著	吉川弘文館
	近世西海捕鯨業の史的展開：平戸藩鯨組主益富家の研究	藤本隆士著	九州大学出版会
	鷹狩の日本史	福田千鶴, 武井弘一編	勉誠出版
江藤 智佐子	実務と教養をつなぐ：秘書教育プログラムの成立と変容	江藤智佐子著	学文社
小津 草太郎	子ども虐待という第四の発達障害（学研のヒューマンケアボックス）	杉山登志郎著	学研
塩田 裕明	語用論研究の可能性	松村瑞子, 山崎和夫, 因京子編著	朝日出版社
図子 善信	税法概論 19 訂版	図子善信著	大蔵財務協会
徳田 智代	公認心理師のための協働の技術：教育と産業・労働分野における工夫	徳田智代, 坂本憲治, 隅谷理子著	金子書房
吉田 洋一	久留米まち物語（ふるさと文化誌：第 10 号）	ふるさと文化誌編纂委員会編	福岡県文化団体連合会
	諸国見聞	石本猪平著/石本昭一翻刻/古賀正美, 山口淳校注	海鳥社
	越境する文化、共振する世界	比文記念誌を編集・刊行する会編	比文記念誌を編集・刊行する会

※寄贈者名：敬称略。本学教員著書は、図書館 1 階 寄贈図書コーナーに排架。

新聞記事データベース

『朝日新聞クロスサーチ』（朝日新聞）と『ヨミダス歴史館』（読売新聞）の 同時アクセス数が期間限定で増加します！！

朝日新聞クロスサーチとは？

朝日新聞社が提供する 1879 年（明治 12 年）の創刊号から今日まで、約 140 年にわたる紙面から約 1600 万件の記事・広告が検索できる日本国内最大級の新聞記事データベース。雑誌「AERA」「週刊朝日」の記事も収録。

実施期間：2022 年 10 月 3 日（月）～10 月 16 日（日）

同時アクセス数：50（通常は 2）

URL：<https://xsearch.asahi.com/>



ヨミダス歴史館とは？

明治からの読売新聞記事 1400 万件以上がネットで読めるデータベース。

「明治・大正・昭和」「平成・令和」のほか、「The Japan News」「現代人名録」の計 4 つのコンテンツが利用できます。

実施期間：2022 年 9 月 19 日（月）～12 月 18 日（日）

同時アクセス数：100（通常は 1）

URL：<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>



この機会に授業等で是非ご活用ください。

※利用ガイドなど詳しくは御井図書館ホームページ-データベース一覧-でご確認ください。

URL：<http://www.std.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/databaselist.htm>

図書館利用状況（2022年度）

		4月	5月	6月	7月	8月	合 計
開館日数		30	26	30	30	27	143
入館者数	合 計	13,362	14,263	17,046	17,568	3,314	65,553
	学内者	13,048	13,300	15,851	16,311	2,800	61,310
	その他学外者	314	963	1,195	1,257	514	4,243
貸出冊数	合 計	2,577	2,761	3,577	3,413	1,347	13,675
	学生一人当たりの貸出数	0.40	0.42	0.55	0.54	0.15	2.06
	学 生	2,140	2,248	2,984	2,926	795	11,093
	教職員	352	368	356	279	353	1,708
	その他・学外者	85	145	237	208	199	874
AVライブラリー 利用件数	合 計	1	4	1	4	9	19
	学 生	1	3	1	4	4	13
	教職員	0	1	0	0	0	1
	その他学外者	0	0	0	0	5	5
相互利用 (文献複写) 申込件数	合 計	83	75	68	77	41	344
	学 生	49	42	22	49	23	185
	教職員	34	33	46	28	18	159
	その他学外者	0	0	0	0	0	0
相互利用 (現物貸借) 申込件数	合 計	24	13	29	25	11	102
	学 生	16	6	10	7	3	42
	教職員	8	7	19	18	8	60
	その他学外者	0	0	0	0	0	0
地域住民 登録・更新数	地域住民 一般高校生、その他	5	41	34	21	23	124

<貸出冊数についての注記>

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室所在分を含まない。
2. 学生一人当たりの貸出数は、2022年5月1日現在の御井キャンパスの学生数 5,387人で算出。
(留学生別科、聴講生は除く)

編集・発行 久留米大学御井図書館
〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635
TEL : 0942-44-4015 FAX:0942-43-0348
<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>